



西城の食材を生かして

西城中学校生徒の弁当販売・11/23

No.1

西城中学校の2年生が、西城自治振興センターで、地元食材を生かした弁当の販売を行いました。

西城中学校の生徒は「総合的な学習の時間」の授業で、ふるさと西城の魅力を見つめ、地域のために自分たちができることを考え実践しています。2年生は昨年度から「食」に注目し、ヒバゴンネギやゴギなど西城ならではの食材を生かしたメニューを開発しており、地元生産者やJA庄原西城支部女性部の皆さんの協力で、今回の弁当販売が行われました。

生徒は「地域の方に支えられ、ふるさと西城への愛がさらに深まった」と話し、購入者は「中学生の発想そのものが魅力。お年寄りの方が雨の中、楽しみに弁当を待つ光景から、地域のつながりや西城愛を感じた」と話しました。



▲弁当販売の様子



▲生徒がメニューを考えた「どえりゃあうまい弁当」



▲盛り付けをする生徒

運動の秋を駆け抜ける！

2020 口和走ろう会・11/23

No.2

庄原市体育協会口和支部が主催する「2020 口和走ろう会」が口和総合運動公園で開催されました。

当日は、小学生の部43人、一般女子の部4人、一般男子の部（町内）25人、一般男子の部（町外）7人の計79人が参加しました。コースの沿道では、マスクの着用など感染症対策を実施した保護者や家族、地域の人たちが声援と温かい拍手を送り、後押しを受けた走者は力強い走りで周回コースを駆け抜けました。

参加者は「新型コロナウイルスの影響でさまざまなイベントが中止となる中、口和走ろう会に参加できてよかったです」と話しました。また、主催者の河野俊朗口和支部長は「来年、感染状況が落ち着いていたら、第40回記念大会を盛大に開催したい。さらに多くの参加者でにぎわう大会にしていきたい」と話しました。



▲元気よく駆け出す子どもたち



▲レースの様子



▲トップランナーのゴール



“いいいろ塗装の日”

塗装の奉仕活動・11/16

No.8

11月16日は「いいいろ」の語呂合わせから「いいいろ塗装の日」とされています。この日に合わせて、日本塗装工業会広島県支部北部地区による塗装の奉仕活動が行われました。

例年、同会の広島県支部に加入している庄原市内の塗装業の皆さんが、市内の公共施設などをボランティアで塗装しており、今回は庄原市運動広場（さくら球場）のダッグアウト（野球場で監督やグラウンドに出ていない選手の控え席）を塗り替えました。

奉仕活動できれいに塗り替えられたさくら球場をぜひご利用ください。



▲塗り替え作業をする支部会員の皆さん

正月に向けて

しめ縄作り教室・12/10

No.10

西城自治振興センターでしめ縄作り教室が開催され、地域住民12人が参加しました。

参加者はそれぞれ3人の講師から説明を受け、地元で収穫されたわらを使って作成に取り掛かりました。

まず、手くしでくずを取り除いた後、わらをひもで束にまとめました。その後、両手を使って締め上げながら丁寧に縄をなっていました。初めは慣れない作業に苦戦していた参加者ですが、講師の指導のおかげで徐々に慣れていき、2時間後には立派なしめ縄が出来上がりました。

参加者は「なう作業が難しかったが、無事に完成できて良かった。玄関に飾って新年を迎えたい」と話しました。



▲しめ縄の作り方を教わる参加者

防火意識を高める

防火訪問・11/16

No.7

庄原市消防団総領方面隊、三次消防署甲奴出張所、民生委員の三者で、秋季全国火災予防運動期間を中心に、高齢者住宅防火訪問が実施されました。

火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、消防と福祉関係者が連携して、町内の75歳以上の単身高齢者世帯宅を訪問し、防火を呼び掛ける啓発グッズを配布したほか、健康状態の確認も行われました。

訪問を受けた高齢者は「日頃から、火の元だけは気をつけるようにしているが、今から暖房を使う機会も増えるのでさらに注意していきたい」と話しました。



▲防火を呼び掛ける隊員

子どもたちの心温まる演奏

広島ジュニアマリンバアンサンブルコンサート・11/21

No.9

東城文化ホールで「広島ジュニアマリンバアンサンブル」によるコンサートが開催されました。この団体は、マリンバ（木琴の一種）の音色を通じて世界中の平和を願う目的で結成され、国内のコンサートをはじめ、世界各地での演奏交流など海外でも活躍しています。

本公演は、新型コロナウイルス感染症対策のため市内在住の方を対象とした公演でしたが、当日は130人が来場しました。元気いっぱいのリズミカルな曲や落ち着いたクラシックの曲など、21曲の素晴らしい演奏が披露されました。

コンサートの来場者は「子どもたちの演奏から元気をもらって、前向きな気持ちになった」と話しました。



▲マリンバを演奏する子どもたち

子どもたちへの贈り物

大型絵本と図鑑の寄贈

No.4

公益財団法人浦上奨学会から、市内の幼稚園や保育所など21施設に、大型絵本や図鑑など約230冊が寄贈されました。

同会はリョービ株式会社創業者の「向学の意欲に燃える若者たちを支援したい」という願いから設立された財団法人で、このたびの寄贈も「児童の豊かな人間形成」を願って行われました。

乳幼児期に絵本などに十分触れることは、豊かな心を育みます。市内の子どもたちは、絵本や図鑑が大好きで、毎日目を輝かせて読んでいます。子どもたちにとって素敵な「贈り物」となりました。



▲贈り物に喜ぶ永末保育所の子どもたち

ブッポウソウの保護活動

巣箱作り・12/19

No.6

比和自然科学博物館友の会によるブッポウソウの巣箱作りが、比和自治振興センターで行われました。

青色の羽と翼の白い斑紋が特徴のブッポウソウは、全国的に絶滅の恐れがある野鳥ですが、県内では数十年前から、電柱などに巣箱を架設することで保護増殖に成功しています。この日、同会でも3～4月ごろに市内に巣箱を架設できるようにと、会員が作業を行いました。

巣箱を小鳥用よりも少し大きく作る必要があり、巣穴を開けたり組み立てたりと、作業に苦戦する人もいましたが、各自楽しそうに作業を進めていました。

会員は「この巣箱が少しでもブッポウソウの個体数増加につながってくれば」と期待を寄せました。



▲完成した巣箱

▲力を合わせて巣箱作り！

のろしでつなぐ、地域をつなぐ

第13回狼煙再現プロジェクト・11/23

No.3

庄原市のろしプロジェクト実行委員会による「狼煙再現プロジェクト」が行われました。このプロジェクトは、市内自治振興区により13年前から開催されており、のろしのリレーによる「人と人、地域と地域の絆づくり」を目的としています。本年度は庄原地域の7つの自治振興区が順番にのろしを上げました。

当日は新型コロナウイルスの感染防止のため、飲食を伴うイベントを取りやめ、のろしリレーのみとなりました。北自治振興区を皮切りに、高、庄原、峰田、敷信、東、山内自治振興区の順にのろしがつながり、このプロジェクトの目的のとおり「人と人、地域と地域の絆」が深まりました。



▲のろしが上がる様子（庄原自治振興区）

冬を彩る

ウインターイルミネーションたかの点灯式・11/28

No.5

高野地域観光交流推進会が、道の駅たかのでウインターイルミネーションの点灯式を行いました。

日の暮れた17時過ぎ、司会をする道の駅たかの職員が「新型コロナウイルス感染防止のため小さな声で」と案内し、来場者と一緒にカウントダウンをすると、芝生広場にある5本のモミジバフウの木に設置されたイルミネーションが一斉に点灯しました。

その後、地元で採れた大根と白菜のポタージュスープが先着300人に振る舞われ、気温5度の寒さの中訪れた人たちは、体を温めながらイルミネーションの光を眺めていました。イルミネーションは、3月末までの17時～22時に点灯しています。



▲光り輝くモミジバフウの木